

# JR東海労ニュース

No. 834

2006年 8月11日

JR東海労働組合

## 「週刊現代」公安デマ情報のたれ流し!?

威勢のよかった電車の中吊りでの大見出しが、4週目を迎えかなり控えめになってきた。「情報元が公安寄りである」との指摘を多方面から受けながらも、執拗に連載を続ける背景に「週刊現代の部数の減少」があるといわれている。以前は編集長も執筆者も「反権力意識が旺盛だった」らしいが、今では金のためには見境もない公安ベッタリの養殖記者ということなのか??

聞くとところによると、JR連合はこの連載期間、大量に購入し議員会館にばらまいているという。いったいそのお金はどこから出ているのか? いずれにしろデマ情報による組織破壊を私たちは絶対に許さない!

ジャーナリズムの精神はいかに?  
売り上げのためにはなんでもあり?

8月7日東京新聞



「週刊現代」がまたも「タブーに挑戦」となった長期連載を始めた。今度のターゲットは「JR東日本、正確に言えよその労働組合である。過激派の革マル派がその組合に浸透している」という批判なのだが、見出しがさまざま。テロリストに集ったJR東日本「本の実態」。リードによるとそれは「平成ニッポンに興された最大にして最後のタブー」なのだといふ。

編集部の肩に責任が重たくなってきた。JR東日本が「踏切切ったはずだ。その理由がある。JR批判といふのは、詰んで指摘している」と別の意味で批判している。今でも「JR東日本誌」としてはタブーだが、これは有名な話だが、今から十二年「週刊文庫」が同じ拒否に悩んでいる。組して、同労組「過激派だ

「週刊現代」がまたも「タブーに挑戦」となった長期連載を始めた。今度のターゲットは「JR東日本、正確に言えよその労働組合である。過激派の革マル派がその組合に浸透している」という批判なのだが、見出しがさまざま。テロリストに集ったJR東日本「本の実態」。リードによるとそれは「平成ニッポンに興された最大にして最後のタブー」なのだといふ。

編集部の肩に責任が重たくなってきた。JR東日本が「踏切切ったはずだ。その理由がある。JR批判といふのは、詰んで指摘している」と別の意味で批判している。今でも「JR東日本誌」としてはタブーだが、これは有名な話だが、今から十二年「週刊文庫」が同じ拒否に悩んでいる。組して、同労組「過激派だ

### 情報源・公安寄り否認せず

### 「JR東労組＝過激派」批判

「週刊現代」は時局を同じくして別のページで共謀罪批判のキャンペーンも始めたから、そうした背景を認識してはいるのだろう。ただ今回の連載を断ると、情報源である公安との距離が十分にとれていない印象を受ける。「週刊現代」加藤編集長も、以前「時の真相」の敏腕記者だった執筆者の西岡研介氏も、反権力意識が旺盛だったはずなのに、うんどうしちゃうたのかなあと、そんな心配をしてみました。

（月刊「創」編集長・藤田博之）